



児童家庭支援センター ファミリーステーションいなみえん通信

発行：社会福祉法人 伊奈美園 発行日：令和2年6月吉日【第26号】



ともに歩む ——心理相談と認知・知能検査——

心理主任：浅田^{あさだ} 伸史^{のぶふみ}



児童家庭支援センターファミリーステーションいなみえんでは、近年 WISC-IVや WAIS-IVを導入し、心理相談業務の一環として地域への相談支援に活用している。ご存じの方々も多いだろうが、この二つの検査は発達障がいやその傾向をもった子どもの認知機能の偏りを知ること、適応や支援に向けての方策を考えていくために役立てることができる。しかし、個別検査という特性から、検査施行にも1~2時間近い時間がかかる上に結果の整理などにも時間がかかるため、検査を受ける子どもにとっても負担は少なくない。だからこそ、先に述べたような子どもへの支援に検査結果をいかにつなげていくかが、我々相談機関における心理職の重要な役割となっている。

心理検査に対しては、子どもの能力を数値化しラベル付けする危険性があると言った批判もある。この批判は、ある意味では適切であるが、ある意味では不適切である。子どもに対して、我々支援者が（そして、誰かに対して他の誰かが）、何らかの判断をするときには常に、ラベル付けの危険を伴う。例えば、「この子は優しい子だ」とラベル付けを行えば、その子の行動の背景には「優しさ」が想定されるし、「この子はわがままな子だ」とラベル付けを行えば、同じ行動の背景に「わがまま」が想定される。それはどういうことか。二人の子どもが同じように、捨て猫を拾ってきて、その猫に餌を与えるためにご飯を残していたとしよう。「優しい子」とラベル付けされ



た子の場合には、「どうしたのかな？何か理由があるのかな」と考えてもらえる。場合によっては、理由を聞いてもらえたり、そっと後をついて行ってみ守ってもらえるかもしれない。ところが、「わがままな子」とラベル付けされた子の場合には、「好き勝手に残してわがままだ」と評価されて終わりになるかもしれない。もちろん、必ず今述べたようなことが起きるわけではないが、そのような傾向が生まれやすくなる。そして、数字で表わされたものに対しては、我々はつい過剰な絶対性を感じてしまいやすい。この危険性を我々は忘れずにいなくてはならないだろう。



しかし、人が人と関わる時には、否応なく何らかの判断を伴う。年齢や性、見た目、性格、自分と相性が合うとか合わないとか。それらを一切排して誰かと出会うことは不可能であるし、意味もなくなってしまう。大切なのは、検査のデータは当人のことを分かりやすく理解するための一面であり、その人そのものではないという、非常に簡単な事実である。それを忘れてしまえば、数値化されようとされまいと、その子どもをある一面からだけしか見られないようになってしまう恐れがある。

このため、検査の結果について理解するために大切なのは、単に数字上のデータではないのはもちろん、検査担当者の所見、つまり、専門家の見立てそのものではない。その見立てをもとに、他の支援者(そこには保護者も含まれる)や時には子ども自身と一緒に検査から得られた結果から、何を考え、活かしていくかである。データはデータでしかない。そのデータを、子どもの日常の生活感覚や強み、困っていることなどといかにつなげて理解し、また、分からない部分は分からない部分として保留し、子どもの成長を見守りながら支援をしていくことが大切である。



検査を施行し結果を報告することで支援に貢献することが我々心理職員の役割ではない。その後の結果をどのように役立てることが出来るのか、ともに考え、歩んでいく過程を共にすることが、児童家庭支援センターにおける心理職員のあり方である。

WISC・WAIS とは

WISC-IVとWAIS-IVは、ウェクスラー博士が開発した知能検査で、発達理解とその支援のためのツールとして発展してきました。

個人の認知機能の働きや特徴をみることができます。

対象年齢は、WISC-IVが5歳0か月～16歳11か月の児童、WAIS-IVが16歳0か月～90歳11か月の成人です。このほかにも、2歳6か月～の幼児を対象としたWPPSI-IIIもあります。



山代出張相談

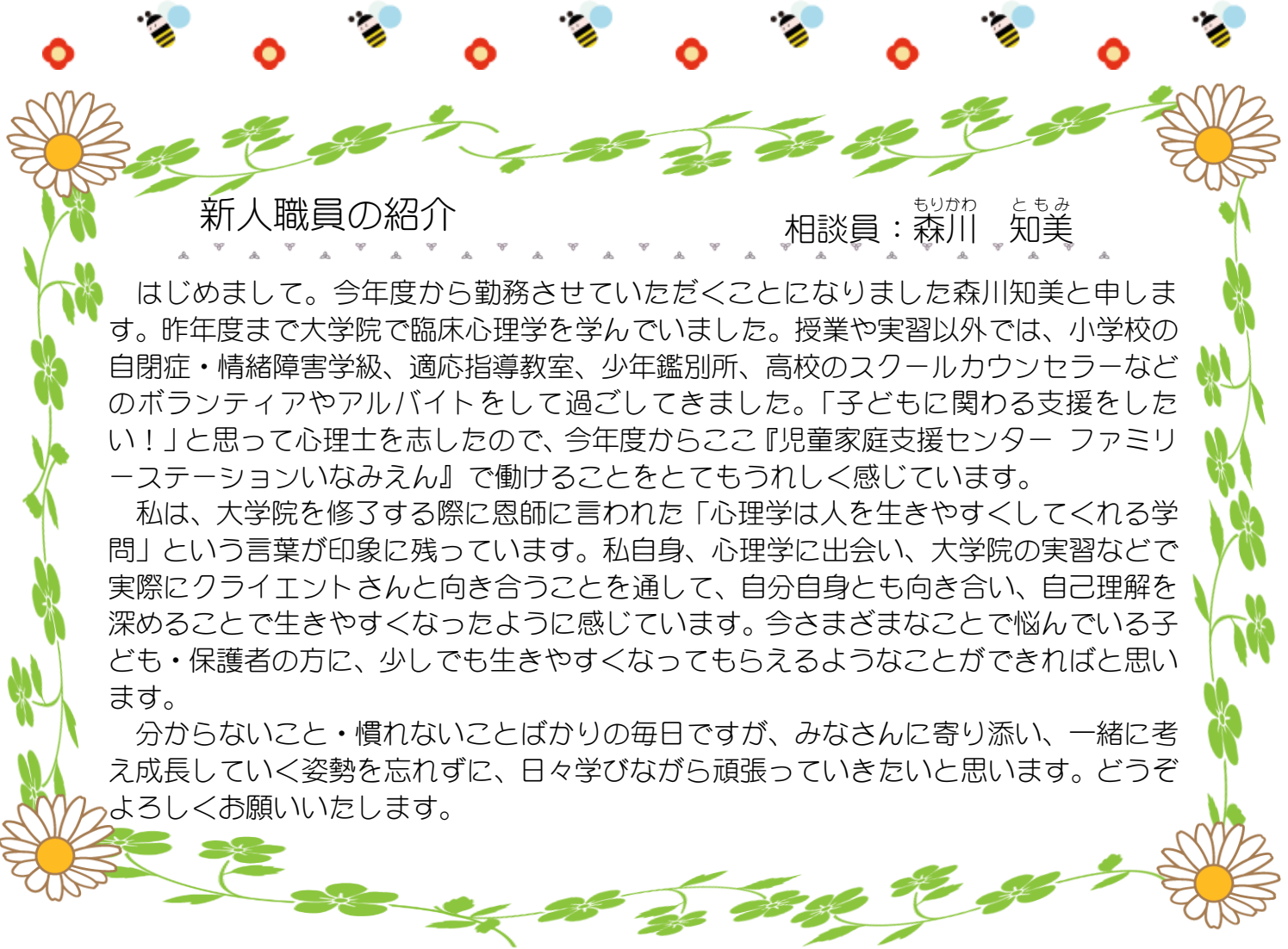
「なんとなく誰かに話したいけど、相談できる人がいない…」
「相談したいことはあるけど、こんな話をしても大丈夫なのかな…」
ちょっと寄り道して、お話してみませんか？

ファミリーステーションいなみえんでは、石川県加賀市にある山代よりみちハウス（山代小学校前）で当センターの職員が常駐してお話を聞く、『山代出張相談』を行っています。今年度は、毎月第2金曜日 14時～16時にオープンしています。

ちょっと話してみようかな？と思った方は、時間内であれば予約のお電話なしでもお話をすることができます（※ただし予約者がいた場合は予約者を優先）。相談はしたいけど、電話で予約するほどの話なのかな…？と思っている方にとっても、立ち寄りやすい場所になればいいなと考えています。

子どもに関する悩みがある保護者の方はもちろん、子どもさん自身も悩みごとや心配ごとなど、相談することができます。

どうぞお気軽にお立ち寄りください。お待ちしております！



新人職員の紹介

相談員：森川 もりかわ 知美 ともみ

はじめまして。今年度から勤務させていただくことになりました森川知美と申します。昨年度まで大学院で臨床心理学を学んでいました。授業や実習以外では、小学校の自閉症・情緒障害学級、適応指導教室、少年鑑別所、高校のスクールカウンセラーなどのボランティアやアルバイトをして過ごしてきました。「子どもに関わる支援をしたい！」と思って心理士を志したので、今年度からここ『児童家庭支援センター ファミリーステーションいなみえん』で働けることをとてもうれしく感じています。

私は、大学院を修了する際に恩師に言われた「心理学は人を生きやすくしてくれる学問」という言葉が印象に残っています。私自身、心理学に出会い、大学院の実習などで実際にクライアントさんと向き合うことを通して、自分自身とも向き合い、自己理解を深めることで生きやすくなったように感じています。今さまざまなことで悩んでいる子ども・保護者の方に、少しでも生きやすくなってもらえるようなことができればと思います。

分からないこと・慣れないことばかりの毎日ですが、みなさんに寄り添い、一緒に考え成長していく姿勢を忘れずに、日々学びながら頑張っていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

多難な令和2年度の始まり

所長：田中^{たなか}孝^{たかし}

新年度がスタートしたが、今までにない異様な新年度となっています。その理由は、もちろん新型コロナウイルス感染症です。感染防止策のため、3～5月にかけて打合せ会や研修などの会合は全て中止、児童家庭支援センターでは、一般の相談もマスク着用で受けたり電話相談に変更したりと、今まで普通に出来た事が難しくなっています。Webを使った支援も準備中です。

全学校が3月から5月までほぼ臨時休校となり、子ども達は、初めのうちは「長い春休みだ～」と喜び子もいましたが、行事ができず外へ出ることも制限されることから、「早く学校へ行きたい、部活したい」という声が多く出始めました。学校嫌いな子にとってはストレスが無くなり、のんびりと生活していますが、この状態では駄目だと痛感しています。職員も色んな面から毎日ピリピリした状態です。この原稿を書いている5月14日には、緊急事態宣言が石川県も解除となり、少しは元通りの生活になれるかと期待をしています。

数年後にこの時期を思い出して、「そういえばコロナが流行って大変だったなあ」と笑って話すことになれば、良いのですが・・・

令和元年度相談件数統計（4/1～3/31）

電話相談	75
来所相談	304
訪問相談	313
心理療法等	233
合計	925
児童相談所からの受託による指導	131

【相談ダイヤル】

月曜日～土曜日

9：00～17：00

0761-75-8889

【山代出張相談】

〈場所〉山代よりみちハウス

〈日時〉毎月第2金曜日

14：00～16：00

連絡は当センターまで♪

相談担当

曜日	一般相談担当		心理担当（要予約）	
	上出	森川	浅田	森井
月	9：00-17：00	9：00-17：00		9：00-17：00
火	9：00-17：00	9：00-17：00		13：00-21：00
水	9：00-17：00	9：00-17：00		13：00-21：00
木	9：00-17：00	9：00-17：00		13：00-21：00
金	9：00-17：00	9：00-17：00		9：00-17：00
土	9：00-14：30	9：00-14：30	10：00-17：00	9：00-14：30
日				

今後の予定

- 6月12日（金）山代出張相談（月定例）
- 6月15日（月）山代地区子どもを育てる会（月定例）
- 6月16日（火）子ども支援連絡会（月定例）
- 6月26日（金）親の会（月定例）

子どもと家庭の悩み 話してみませんか？

児童家庭支援センター ファミリーステーションいなみえん

〒922-0412 石川県加賀市片山津温泉井6番地

TEL：0761-75-8889 FAX：0761-74-1461 E-mail：center@inamien.jp HP：http://www.inamien.jp